

平成29年度

教育事務に関する 点検及び評価報告書

《平成28年度事業分》



平成29年11月

七戸町教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることになりました。

七戸町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者からなる「七戸町教育評価審議会」からご意見をいただきながら、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検及び評価を行い、報告書を作成いたしました。

この結果をこれからの施策等に反映させ、教育施策を着実に推進していきたいと考えておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務
その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	七戸町教育施策の方針	4
III	平成28年度事業分 教育委員会の活動状況について	15
IV	平成28年度事業分 教育委員会の事務事業に対する意見	16
V	平成28年度事業分 施策別主要事業一覧	18
	事業評価シート	19

I 点検・評価の概要

1 点検・評価の対象

(1) 点検・評価の対象

七戸町教育施策の方針に基づいて実施する学校教育、社会教育、社会体育、文化財保護と芸術文化振興等の各分野を構成する主な事務事業を対象に点検・評価を行った。

(2) 点検・評価の方法

各分野、施策に属する事務事業を点検・評価するため、事務事業ごとに事業費、目的、事業効果等を整理し、その結果に基づいて事業評価及び今後の取組等について記載した。

(3) 学識経験者の知見の活用

教育委員会が実施した点検・評価の客観性を確保するため、教育評価審議会を開催し、教育に関し学識経験を有する者（教育評価審議会委員3人）から意見をいただき、点検・評価の実施と報告書の作成を行った。

2 点検・評価作業の経緯

平成29年6月26日	点検・評価に係る資料作成依頼
8月30日	第1回教育評価審議会
9月20日	第2回教育評価審議会
10月20日	第3回教育評価審議会
11月22日	定例教育委員会へ報告
11月15日	文教厚生常任委員会へ報告
12月 1日	第4回町議会定例会へ報告

3 評価報告書の公表

評価報告書は、七戸町ホームページに掲載し公表する。

4 点検・評価に際し、委嘱した学識経験を有する者

松林 和子（七戸神明宮宮司）
石田 隆平（自営業）
富浦 一行（医師）

5 前年度（平成27年度事業分）の点検・評価における教育評価審議会委員からの意見に対する説明

教育評価審議会委員からの意見（要約）	各課からの回答
<p>(1) 学校給食費給付金事業については、昨年度も意見として取り上げているが、予算規模が大きいため、保護者の一部負担等、引き続き検討してほしい。</p>	<p>教育評価審議会委員からの意見を町長へ報告・相談しているが、町長の公約の「子育てや定住支援」事業の一つであることから、今後も続けていきたい。</p> <p>保護者へのアンケートによる事業の検証については、反対意見はほとんど無いと思われるため、実施する予定は無い。</p> <p>(学務課)</p>
<p>(2) 学校教育について、勉強すれば高い点数を取れるという「達成感」「充実感」を子供たちに味わせるため、英語検定、漢字検定、数学検定等を活用し、学力向上の一助にしてほしい。</p>	<p>各学校の教科担任・学級担任を中心に、子供たちへ各種検定を受検するように働きかけている。</p> <p>学力向上対策として、町独自の講師を採用し、少人数学級の編成、習熟度別学習を実施している。</p> <p>(学務課)</p>
<p>(3) 町立美術館について、インパクトのある事業を実施し、町立美術館の存在を大きくアピールできるような事業を実施してほしい。</p> <p>一方で、美術館の本来の役割である、芸術を広める事業については、まだまだ弱い部分があると思われる、所蔵している作品をもっと広く町民へ見ていただくような事業を展開してほしい。</p>	<p>インパクトがあり美術館の存在を大きくアピールできる事業として、平成28年度は「片岡鶴太郎展 四季彩花」、「模型のタミヤが美術館にやってきた!!!」、「草乃しずかの世界展」などの実施により、来館者数は平成27年度9,835名に対し、平成28年度は38,200名と約4倍に増加した。</p> <p>また、地域に芸術を広める事業として実施している「地域における芸術文化振興拠点事業」では、「みる」「描く」「つくる」活動を基本に、絵画・工芸・版画などの教室を開催し、体験型学習機会の提供を行った。</p> <p>所蔵作品の展示（常設展）については、大きく広告宣伝はしていないものの、異なるコンセプトで2回の展示替えを行い、固定客も楽しめるよう努力している。</p> <p>今後は更に所蔵作品を活用した特別展を開催する予定である。</p> <p>(生涯学習課)</p>

<p>(4) 文化交流センターについて、非常に貴重な歴史資料が展示されているが、多くの町民にその存在が知られていない状況と思われるため、もっとアピールしてほしい。</p>	<p>施設の維持管理は世界遺産対策室で行っているが、職員が少なく、常時見学者を受け入れることができない状況である。</p> <p>また、世界遺産登録に向けた業務の増大もあるため、職員体制の充実がなければアピールすることが難しいと考えている。</p> <p>(世界遺産対策室)</p>
<p>(5) スポーツ振興について、町民が気軽に参加できるスポーツ大会がないが、例えば、新幹線駅を起点としたマラソン大会や、自転車を絡めた大会など、町外からの参加者も見込めるようなスポーツ大会を検討してほしい。</p>	<p>町民スポーツ交流会（七戸ギネスチャレンジ）や体育協会加盟団体によるスポーツ大会をはじめ、平成28年度からは健康増進生涯スポーツ普及事業として、子供から高齢者まで参加しやすい「軽スポーツの集い」を始め、町民1スポーツの普及・奨励に努めている。</p> <p>しかしながら、参加者の減少が見受けられるため、参加者の意見を聴きながら、さらに多くの町民が参加できるよう改善し継続していきたい。</p> <p>また、スポーツ少年団や体育協会加盟団体等では、町外参加者を含めた大会を開催している。</p> <p>今後は、大会未実施の競技や様々なスポーツ種目の大会について、町民のニーズと種目の多様性や世代と年齢の多様性などを踏まえ、関係団体や競技者と連携を図り開催を検討したい。</p> <p>(生涯学習課)</p>

Ⅱ 七戸町教育施策の方針

七戸町教育委員会は、「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の形成に向け、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、

- 1 「生きる力」を育むための、子供たちの未来のための、学校教育
- 2 学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上
- 3 伝統文化を尊重し、我が郷土に誇りをもつ態度の育成
- 4 生涯を通して生き生きと学び続ける機会や場の提供

を、関係機関・団体、地域との密なる連携を図りながら推進します。

学校教育の方針と重点

1 方針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊で、新しい時代を主体的に切り拓く幼児児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に努める。

2 重点

(1) 確かな学力の育成

一人一人の子供が、各教科や総合的な学習の時間等において主体的に取り組み、確かな学力を身に付けることができるよう、児童生徒理解に基づいた学年・学級経営の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 教材研究の深化と魅力的な授業づくりの推進

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
- ・ 言語活動の充実を図り、学習意欲を高める授業の実践
- ・ 習熟の程度の把握・教材研究の深化に基づく「わかる授業」の実践

イ 指導と評価の一体化

- ・ 自己解決の場の設定と適切な授業形態の工夫
- ・ 評価の見直しと評価に応じた具体的な指導の充実
- ・ 必要に応じた補足的学習や発展的学習の導入

ウ 学習環境づくりと学習習慣の確立

- ・ 生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営の充実
- ・ 他校種や家庭と連携した学習習慣の確立
- ・ 一人一人を生かすための学習環境の整備
- ・ 読書習慣を身に付けるための読書活動や学校図書館の有効活用
- ・ 縦の連携、横の連携を生かした学習習慣の確立

(2) 豊かな心の育成

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を核に、学年・学級経営の充実、生徒指導の充実等により、規範意識や思いやりの心、望ましい人間関係の育成を図る。

ア 教育活動全体を通じての道徳教育の充実

- ・ 将来の夢や希望を育み、生き方を考える指導の充実
- ・ 子供の道徳性の実態に即した資料選択と分析・多様な指導方法の工夫
- ・ 道徳の時間と教科・領域・総合的な学習の時間、「私たちの道徳」との関連を明確化した指導計画の作成と効果的な活用の工夫

イ 道徳性の育成や社会性の育成を目指した体験活動

- ・ 道徳の時間との関連性を明確にした体験活動の推進を図るための具体的年間指導計画の作成
- ・ 豊かな体験活動と望ましい集団活動の充実

- ・我が国や郷土の伝統・文化に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進資料の開発・活用
- ウ 自己指導力を育む協同指導体制の充実
 - ・全教職員の共通理解に基づいた実践項目の設定といじめ等への危機管理への協同指導体制の充実
 - ・生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営の充実
 - ・個に寄り添った教育相談体制の充実
 - ・豊かな心の育成を意図した家庭や地域社会及び関係機関等との連携の充実

(3) 健やかな身体の育成

一人一人の子供が、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体としてとらえ、健康でたくましい体を育む教育の推進に努める。

- ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実
- イ 健康に関する知識を身に付け、自ら健康な生活を実践できる指導の充実
- ウ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導
 - ・肥満傾向や過度の痩身、偏食、アレルギー等の個別指導が必要な子供への指導における担任、養護教諭と保護者との連携強化
- エ 身の回りの生活の安全、防災等、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動を実践できる力の育成

(4) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障がいのある子供が、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

- ア 校内支援体制の整備・充実
 - ・校内及び校種間における引き継ぎ体制の整備と組織的・継続的支援
 - ・全教職員の専門性の向上
- イ 指導の充実
 - ・個に応じた適切な教育課程の編成と指導と評価の充実
 - ・個別の指導計画の作成と活用による指導の充実
 - ・ねらいを明確にした交流及び共同学習の実施
- ウ 家庭や地域社会及び関係機関との緊密な連携
 - ・将来の自立や社会参加にむけて個別な支援計画の作成と家庭や地域社会及び関係機関との緊密な連携
- エ 交流及び共同学習による相互理解の促進

(5) キャリア教育の充実

一人一人の子供が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。

- ア 校内推進体制の整備・充実
 - ・全体計画及び各学年の年間指導計画の見直し、組織的・機能的な運営

イ 将来の生き方指導・進路指導の充実

- ・幅広い啓発的体験活動の意図的・計画的実施、保護者への積極的な情報発信の推進
- ・児童生徒の個性や能力の把握、悩みを解消するための具体的指導やキャリアカウンセリングの充実
- ・進路に関する情報や資料を整備・蓄積し、効果的な活用

ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

- ・家庭や地域社会の協力を得た職場見学、職場体験等のさらなる充実

(6) 環境教育の推進

一人一人の子供が、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。

ア 教科等間の連携を踏まえた指導の工夫

- ・各教科等との関連を明確にした年間指導計画等の作成・改善

イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫

- ・小学校と中学校の連携に配慮し、効果的で継続的な指導

ウ 環境に関わる体験学習の推進

- ・学んだことの実践を情報発信し、家庭や地域社会及び関係機関との連携の充実

(7) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子供が、我が国や諸外国との関わりへと学習を発展させていく中で、我が国や郷土の自然環境や文化と伝統、産物について感心を高め、理解を深めるように全教育活動を通じた計画的な指導の工夫に努める。

ア 郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進

イ 外国語指導助手等を活用し、外国語による4技能（話す・聞く・読む・書く）を総合的に活用できるコミュニケーション能力を図ろうとする態度の育成

ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の工夫

(8) 情報化に対応する教育の推進

一人一人の子供が、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルにかかわる指導の充実を図り、組織的・計画的・体系的な情報教育の推進に努める。

ア 情報教育を推進する組織的・計画的・体系的な指導体制の整備・充実

イ 学習指導におけるコンピュータ等の適切な活用の推進

- ・学習に対する興味・関心を高め、わかる授業のために、映像や音声の効果的な提示、情報の共有など、必要に応じてITCの適切な活用における校内研修の計画・実施

ウ 家庭や地域社会と連携しながら児童生徒の安全を守る「情報モラル教育」の推進

(9) 総合的な学習の時間の充実

自校で育てようとする資質や能力及び態度を明確にした総合的な学習の時間の充実に努める。

ア 目標及びその趣旨の共通理解

イ 七つの要素を示した全体計画及び年間計画の作成と見直し

- ウ 他者と協同して問題を解決しようとする学習活動、体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論等の学習活動の展開
- エ 評価方法の工夫

(10) 研修の充実

教職の専門性を高め、教育活動の充実を図るため、校内研修体制の整備・充実に努める。

- ア 全教職員による組織的・計画的な研修の整備・充実
 - ・校内外の研修から得た情報を共有する場の確保に努め、教育専門職として調和のとれた研修を推進
- イ 学校の教育課題解決のための実践的研究方法や評価方法等の明確化と検証の共有化
- ウ 教育要領・学習指導要領に基づく実践的研究の充実

(11) 幼稚園教育の充実

人格形成の基盤づくりと幼児の健やかな成長のために、幼児期の特性と内面理解に立った環境構成を工夫し、体験を重視した指導・援助に努める。

- ア 発達の特性に応じた指導の充実
 - ・一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導の充実
 - ・基本的な生活習慣や態度の育成
 - ・幼児の内面理解に立った環境構成の工夫
- イ 集団の持つ教育力を生かした豊かな心の育成
 - ・遊びなどの体験を通し、協同の態度及び道徳性の芽生えを培う指導の充実
 - ・みずみずしい感性や創造性を育てる表現活動の充実
 - ・善悪の判断力や思いやりの心を育むための家庭との連携
 - ・家庭や地域社会、近隣の小学校や保育所等との連携

社会教育行政の方針と重点

1 方針

町民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、豊かで住みよい地域社会をつくり出すことができるよう、学びを生かしつながりをつくり出す社会教育の推進に努める。

2 重点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

ア 青少年の体験活動の充実

- ・身近な地域における体験活動での、異年齢交流や世代間交流の促進
- ・関係団体との連携による、活動内容の充実

イ 地域が支えるキャリア教育の充実

- ・企業や関係機関・団体との連携による、キャリア形成のための学習機会の充実

ウ 地域全体で子供を育む活動の充実

- ・学校支援ボランティア組織への支援
- ・学校・家庭・地域の協働による教育活動の充実

エ 家庭教育支援の充実

- ・学校及び関係機関との連携による、幼児期、学童期、思春期の子供をもつ親に対する学習機会の充実
- ・子育てサークル等の家庭教育支援団体の育成と支援

(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

ア 地域活動の実践者の育成

- ・家庭教育支援や各種ボランティア活動等についての、新たな実践者の育成
- ・地域課題に対応した学習機会の提供及び企画運営に参画できる体制づくり

イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成

- ・各種ボランティア団体やサークルの地域活動の計画的支援並びに養成
- ・資質向上のための研修機会の提供

ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

- ・各地域の指導者及びコーディネーター相互の交流機会の提供
- ・関係機関・団体等と連携協力するためのネットワークづくりの推進

(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援

- ・多様な学習ニーズや地域課題に応じた学習機会や学習の成果を生かす機会や発表の場の充実
- ・関係機関との連携により学習内容の充実並びに主体的な学習活動の支援

イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

- ・各種発表会・イベント・地域行事への参加等、学習の成果を生かす機会や発表の場の充実
- ・学習者・参加者が企画立案に関わるための実施体制の改善及び社会参加活動への支援

(4) 社会教育推進のための基盤整備

ア 社会教育推進体制の充実

- ・多様化する学習ニーズを反映させた社会教育計画の策定と、改善に役立つ事業評価の創意工夫
- ・関係機関・団体との連携協力体制の強化

イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

- ・地域の特色と、公民館、図書館等の社会教育施設の特徴を生かした取り組みの推進と活用の促進
- ・イベントや講座等の企画の充実と周知方法の工夫による、施設活用の促進

ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上

- ・社会教育主事や図書館司書、学芸員等の有資格者の計画的な養成
- ・社会教育関係職員の研修機会の充実と資質の向上

エ 社会教育関係団体等の活動の支援

- ・社会教育関係団体指導者の各種研修への積極的な参加支援
- ・指導者養成研修の計画的な実施

文化財保護と芸術文化振興の方針と重点

1 方針

町民一人一人が、郷土に対する愛着と誇りをもち、潤いのある生活の実現を目指すとともに、芸術文化の伝承・創造や貴重な文化財の保存・活用の推進に努める。

2 重点

(1) 芸術文化活動の充実

芸術文化団体及びサークル等の自主的な活動を奨励し、その伝承・創造を促進するための支援に努める。

ア 芸術文化に関する団体及びサークル等の育成

- ・自主的な活動についての町内外への情報の発信
- ・芸術文化団体及びサークル等の連携による発表会の機会の創設

イ 鷹山宇一記念美術館等との連携

- ・芸術文化団体及びサークル等への研修機会の提供
- ・子供・青少年が芸術に直接触れることのできる機会の提供

(2) 文化財の保存・活用の充実

町内に存在する有形・無形の文化財等の保存・活用とその環境の整備に努める。

ア 文化財の保存

- ・歴史上や学術上価値の高い有形・無形文化財や埋蔵文化財、民俗文化財等の保存
- ・文化財の保護の普及・啓発

イ 文化財の管理・活用

- ・史跡や名勝、天然記念物の保存のための環境保全
- ・保管している文化財の公開展示と公開講座等の開催
- ・「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向けた取り組みの推進

(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承

郷土に伝わる伝統芸能・工芸技術等の保存・継承を奨励し、それに相応しい環境の整備に努める。

ア 伝統芸能・工芸技術等の保存

- ・歴史的価値の高い伝統芸能・工芸技術等の町指定
- ・記録の作成等による保存と情報の発信

イ 伝統芸能・工芸技術等の継承

- ・伝承活動及び後継者の育成に対する支援
- ・伝統芸能・工芸技術等の発表機会の奨励・支援

(4) 文化交流センター施設の整備活用の充実

ア 文化交流センター内にある資料の保管充実と教育普及

社会体育の方針と重点

1 方針

町民が、健やかで活力に満ちた生活の実現を目指すとともに、健康の維持増進・体力の向上に必要なスポーツ活動及び夢や感動を与える競技者・団体の育成等を通じて生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりの推進に努める。

2 重点

(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現

心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1スポーツの普及・奨励に努める。

ア スポーツに親しむ環境づくり

- ・スポーツへの興味・関心を高める各種教室・講習会等の開催やスポーツ活動の機会の提供
- ・健康とスポーツとの関わりや気軽にできる軽スポーツ等の情報の提供

イ 地域スポーツ活動の普及・奨励

- ・町民相互の連携及び地域の活力の醸成を図るスポーツ交流の普及・奨励
- ・誰でも親しめる総合型地域スポーツクラブ設置の取組

(2) 競技者の育成を図る環境づくり

競技者の競技力の向上を図るとともに、トップレベルの競技者の育成に努める。

ア 競技力を高める環境づくり

- ・町体育協会やスポーツ少年団等の自主的な活動の奨励・支援
- ・スポーツ科学を導入した指導者の養成と研修機会の提供

イ 各種スポーツ大会出場の奨励

- ・競技選手の強化練習の充実
- ・指導技術に長けた指導者の活用

(3) スポーツ振興の体制整備

生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、スポーツに親しみ競技力を向上させる体制整備に努める。

ア 指導者の確保

- ・要請に応じて地域やスポーツ団体へ派遣できる指導者の人材バンクへの登録・活用
- ・スポーツ推進委員や体育協会会員の研修会・講習会等への派遣

イ スポーツ振興の充実

- ・体育協会を中核として各種スポーツ団体や職域団体、地域の代表等の相互理解に基づく生涯スポーツへの取り組み
- ・構成する各種団体からの指導者の相互派遣

ウ 社会体育施設等の有効活用の促進

- ・スポーツ担当職員の研修の充実と実地指導による支援
- ・スポーツ活動に関する情報の収集・発信

公民館の方針と重点

1 方針

公民館は、社会教育機関として町民の学習要求に応えるほか、地域社会の活性化を図るために、良好な人間関係を基盤とした住民相互の豊かな関係を醸成するなど、地域づくりの拠点となることから、多くの町民が公民館に関心を持ってもらうとともに、更なる公民館利用促進につながるよう努める。

2 重点

(1) 公民館等の充実及び活用の促進

- ア より多くの住民が利用しやすい公民館となるような環境整備
 - ・施設や備品の計画的な整備促進
 - ・インターネットを活用した施設予約サービスの充実
- イ 自己啓発・向上に資する講座・研修会等の開催
 - ・子供対象事業及び親子対象事業の充実
 - ・地域活動に参加できるきっかけ（地域デビュー）の提供
- ウ 各分野のリーダーの計画的・体系的な育成
 - ・新たな自主グループの発足に向けての相談や支援の充実
 - ・グループ活動に繋がる主催講座の実施

(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援

- ア 学習活動を支援する指導者・コーディネーター等の紹介・斡旋
 - ・町内の人財活用
 - ・利用者相互の交流の促進
- イ 学習活動に必要な施設設備等の有効活用及び情報機器等による学習情報の提供
 - ・県及び上北教育事務所管内で開催されるイベント及び各種講座、学習会の周知
- ウ 各種発表会・展示会等、文化創造活動の機会と場の提供
 - ・活動成果の積極的な披露

図書館の方針と重点

1 方針

地域住民の資料や情報センターとしての役割を果たすとともに、ボランティア団体等の活動の支援や利用者のニーズに対応した環境整備と情報提供に努める。

2 重点

(1) 図書資料の整備充実と利用の促進

ア 図書資料の充実

- ・蔵書のバランスを考慮し、かつ利用者ニーズに対応した一般書・児童書の収集整備
- ・地域資料の積極的な収集整備

イ 図書館サービスの充実

- ・予約・リクエスト・相互貸借サービスの利用による、利用者と本を結びつけるための、迅速・適切な対応
- ・レファレンスサービス（図書館資料を用いての調べもの案内）の強化

(2) 読書活動の推進

ア 子供読書活動の推進

- ・幼児・児童が本に親しむ環境の整備
 - ・日頃読書習慣のない児童に向けた、本に触れる機会の提供
 - ・「ブックスタート事業」の推進
- ※子育て支援につなげるきっかけづくりを行う。

イ 生涯学習の推進及び支援

- ・生涯学習のきっかけとなる、さまざまな文学作品に触れる機会の提供
- ・読書団体への資料提供等協力や催事への後援

ウ ボランティア活動の育成と支援

- ・図書ボランティアの円滑な活動のための各種研修会への派遣や活動機会の提供

Ⅲ 平成28年度事業分 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、5人の委員をもって組織し、学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関することや教育財産の管理に関すること、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関すること等について、管理、執行することとされている。

1 教育委員の構成

平成29年3月現在

役 職 名	氏 名	任 期
委 員 長	附 田 道 大	平成28年5月17日～平成32年5月16日
委員長職務代行者	内 山 優	平成27年5月17日～平成31年5月16日
委 員	山 本 貴 子	平成26年5月17日～平成30年5月16日
委 員	福 田 雅 行	平成25年5月17日～平成29年5月16日
教 育 長	神 龍 子	平成25年5月17日～平成29年5月16日

2 教育委員会の開催状況

七戸町教育委員会の会議は、毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催している。

また、所管する事項について調査及び研究を行い、現状の把握や課題の解決に努めるなど、教育行政の推進を図っている。

(1) 教育委員会会議（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

開 催 回 数		付 議 案 件			
定 例 会	臨 時 会	報 告	議 案	協 議	選 挙
12	1	30	43	3	1

3 教育委員の会議以外の活動状況

教育委員は、毎月1回開催する定例会議、必要に応じて臨時会議に出席しているほか、学校等の教育関連施設を訪問して教育現場の状況を把握するとともに、研修会や教育委員会主催の各種行事に参加し、委員としての幅広い識見を養い、当町の教育行政の向上に努めている。

(1) 主な活動

学校訪問（幼稚園、小学校4校、中学校3校）	上十三教育委員会連合会研修会
青森県教育委員会連合会研修会	東北六県教育委員会連合会研修会
幼稚園、各小・中学校の入学式や卒業式等の学校行事	成人式
教育奨励賞授与式	教育福祉援助基金授与式
奨学生選考委員会	

IV 平成28年度事業分 教育委員会の事務事業に対する意見

七戸町教育委員会の事務事業評価の取組は、平成21年度の平成20年度事業評価からスタートし、今回が9回目の事業評価となるが、回を重ねるごとに、その内容や様式を改善しながら充実を図ってきた。

平成28年度事業もこれまで同様に個々の事業の気付いた点を評価することとした。

1 学校給食費給付金事業については、昨年度も意見として取り上げているが、予算規模が大きいため、保護者の一部負担を実施し、他の学校教育費、例えば、施設の修繕費や教材費の予算を充実した方が、教育環境の改善に資すると考えられる。

また、一部でも負担することにより、保護者の子供に対する教育の意識や責任感の高まりも望めると考えられることから、検討してほしい。

2 外国語指導について、ALT派遣事業、異文化交流事業、国際交流事業等、子供たちが英語に接する機会を増やす事業を実施しているが、数年後の小学校高学年の英語の教科化、中学年の英語活動の充実に向け、小学校教員の英語の指導力向上のための方策を早期に示し実践に移してほしい。

3 町立美術館について、平成28年度は、魅力のある企画展等を開催した結果、入館者数が大幅に増えた。今後、さらに魅力ある企画展等を実施し、それをより多くの人々に発信していくために、美術館のホームページのイベント情報コーナーにワンクリックで辿り着けるような工夫をしてほしい。

また、企画展が開催されていない時期の来館者を増やすためには、町民を巻きこんだイベントを開催したり、ランプや絵馬等常設している作品については、一部を、例えば雛人形等の町内にある文化財と入れ替えての展示や、七戸十和田駅の観光交流センターに幾つかのランプを展示して「鷹山宇一」の紹介や美術館への導線をつくるなど、様々なアイデアを出してアピールしてほしい。

4 公民館の実施している事業について、七戸地区と天間林地区で同じ内容の各種講座を開設しているが、町村合併から10数年経過しているので、整理・統合を検討してほしい。

連合婦人会育成事業については、公民館が所管していることに疑問があるし、ある程度の目的は達成したと思われる、また、役場全体で見ると、女性が構成員の組織が複数あることから、整理・統合を検討し、個々の負担を軽減していく必要があると思われる。

文化協会の育成支援事業については、個々の団体は自ら活動しているが、それを取りまとめる文化協会の事務は公民館が行っていることから、自分たちで事業を企画・立案していけば、事業の活性化に繋がると思われることから、自立について強力に推進してほしい。

- 5 事業全般について、担当者自ら廃止や見直しの方向性を判断していることは、素晴らしい取り組みであり、今後も継続し、どんどん意見を述べてほしい。

平成29年10月20日

七戸町教育評価審議会委員

松林 和子（七戸神明宮宮司）

石田 隆平（自営業）

富浦 一行（医師）

V 平成28年度事業分 施策別主要事業一覧

施策分野	重点項目	事業細目番号	事業名	継続	充実	廃止	縮小	統合	完了	見直し 検討	その他		
1	学校教育の方針と重点	(1) 確かな学力の育成	1 (1) ①	町費負担臨時教員配置事業	●	●							
				②	臨時講師配置事業	●							
		(2) 豊かな心の育成		(2) ①	七戸町教育奨励賞							●	
				②	教育福祉援助基金給付事業	●							
				③	奨学資金貸付事業	●							
				④	七戸町学校おもいやり事業事業費補助金事業	●							
	(3) 健やかな身体の育成		(3) ①	学校検診事業	●								
			②	七戸町学校保健会補助事業	●								
			③	七戸町児童生徒対外遠征費補助事業	●								
			④	要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業	●								
			⑤	学校給食費給付金交付事業	●								
	(4) 特別支援教育の充実		(4) ①	特別支援教育支援員配置事業	●	●							
			②	学校生活相談員配置事業	●	●							
			③	就学指導委員会	●								
			④	スクールソーシャルワーカー配置事業	●	●							
	(5) 国際化に対応する教育の推進	(5) ①	外国語指導助手(A L T)派遣事業	●	●								
	(6) 研修の充実	(6) ①	七戸町教育振興会補助事業	●									
		②	ふるさと研修事業	●	●								
2	(1) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	2 (1)	①	家庭教育支援総合推進事業	●								
			②	放課後子ども教室推進事業	●								
			③	学習支援事業(夏休みわくわく学習ひろば)			●						
			④	ふるさと学びあい推進事業	●								
			⑤	異文化交流事業	●								
			⑥	国際交流推進事業	●								
			⑦	理科クラブ	●								
	(2) 次代を担う青少年の育成	(2) ①	成人式開催事業	●									
	(3) 地域を支える人材の育成	(3) ①	町民大学講座開設事業	●									
	(4) 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	2 (4)	①	七戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	●								
②			青少年育成七戸町民会議	●									
3	(1) 芸術文化活動の充実	3 (1)	①	町立美術館の指定管理委託事業	●								
			②	文化芸術鑑賞事業	●								
			③	オータムフェスタ(文化部門)開催事業	●								
	(2) 文化財の保護・保存・活用	3 (2)	①	世界文化遺産登録に向けた取り組み		●							
			②	二ツ森貝塚史跡公園管理業務委託事業	●								
	③	史跡土地買い上げ事業	●										
	④	国指定有形民俗文化財の保管	●										
(4) 文化交流センター施設の整備活用の充実	(4) ①	文化交流センターの活用の充実								●			
4	(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現	4 (1)	①	七戸町ジュニアスキースクール	●								
			②	町民スポーツ交流会	●							●	
			③	体育協会加盟団体によるスポーツ大会	●								
	(2) 競技者の育成を図る環境づくり	4 (2)	①	七戸町長杯野球・ソフトボール大会兼七戸地区防犯野球・ソフトボール大会			●						
			②	青森県民駅伝競走大会	●								
			③	体育協会補助事業	●								
			④	七戸町スポーツ少年団活動費補助事業	●								
			⑤	体育協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)	●								
		⑥	七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(東北大会・全国大会)	●									
		⑦	健康増進生涯スポーツ普及事業	●									
(3) スポーツ振興の体制整備	4 (3)	①	スポーツ推進委員研修	●									
		②	スポーツ顕彰表彰	●									
		③	各種大会開催や合宿等の誘致	●									
5	(1) 公民館等の充実及び活用の促進	5 (1)	①	公民館運営審議員設置事業	●								
			②	中央公民館(施設)事業	●								
			③	中央公民館分館事業		●							
			④	中央公民館講座開設事業	●								
			⑤	寿大学開設事業	●	●							
			⑥	柏葉大学開設事業	●								
			⑦	七戸南公民館講座開設事業	●	●							
			⑧	七戸南公民館分館事業	●	●							
	(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援	5 (2)	①	文化協会の育成支援事業	●								
			②	七戸町連合婦人会育成事業	●								
	③	中央公民館だより発行事業	●	●									
6	(1) 図書資料ので整備充実と利用の促進	6 (1)	①	中央公民館図書室事業	●								
			②	図書館サービス事業	●	●							
			③	図書館協議会の運営	●								
	(2) 読書活動の推進	6 (2)	①	子どもの読書活動推進事業(中央公民館)	●								
			②	ボランティア活動の育成支援事業	●								
			③	子どもの読書活動推進事業(中央図書館)	●								
	④	生涯学習の推進・支援事業	●										

事業評価シート

事業細目番号	1(1)①	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	町費負担臨時教員配置事業				

事業費	年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
	決算額(千円)			12,220	15,681
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			12,220	15,681

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	<p>各校の教育課題を解決するため、町独自の教員(臨時講師)を採用し、教育環境の充実による「確かな学力の定着」・「生徒指導の充実」等を図る。</p>	<p>1 七戸町教育委員会が求める人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな教養、人間性、社会性を兼ね備えた教師 ・教育に対する情熱と教育者として強い使命感をもって取り組む教師 ・子ども理解に優れ、教育の専門家として知識・技能を備えた教師 <p>2 採用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報、町HPで募集し、選考試験を実施。

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
配置校・配置人数	七戸小学校 1名		七戸小学校 1名	七戸小学校 1名
	天間西小学校 1名		天間西小学校 1名	天間西小学校 1名
	七戸中学校 1名		七戸中学校 1名	七戸中学校 1名
			天間館中学校 1名	天間館中学校 1名

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	各校の教育課題を解決するため、平成26年度から実施している。平成26、27年度に引き続き、配置校及び保護者からの評価が高かった。		

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	平成29年度は平成28年度と同数の人員を配置。(新採用2名、継続2名。七小2名、西小1名、七中1名。) 県費負担教員に採用されるなど、欠員が生じた場合の人材確保が課題となっており、募集の周知方法についての検討が必要。
---	--

事業評価シート

事業細目番号	1(1)②	担当課	学務課	担当者	田村 教男
事業名	臨時講師配置事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)				
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源				

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	少人数学級編成を実現するため、希望する学校へ非常勤講師を派遣して、児童生徒1人1人に対して決め細かな学習指導を行うことによって、学力の向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	この事業は、青森県教育委員会の事業で、町の負担はない。授業の指導のみではなく、学級指導や給食指導も行う。本年度は、あおもりっ子育みプラン21により天間西小学校へ1名、教科指導等充実事業により榎林中学校へ1名、初任者研修実施のため七戸小学校へ1名、天間西小学校へ1名、七戸中学校へ1名配置した。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	配置校・人数	七小2名、東小1名	七小3名、天中1名、榎中1名	七小1名、西小2名、七中1名、榎中1名

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			B
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			B ア
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
	評価の説明	本事業は、小中学校を対象とした青森県教育委員会の事業である。非常勤講師を配置することによって、他の教員の事務量が減った分子供たちへの指導が充実する効果が期待できる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本事業は青森県教育委員会の事業であり、町の財政的負担はない。教職員の事務量が增大してきている中で、児童へのきめ細かな学習指導を行う上で非常に有効な事業であり、今後も県に対して要望・申請していきたい。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)①	担当課	学務課	担当者	濱谷 舞
事業名	七戸町教育奨励賞				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	296	178	102	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	296	178	102		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	園児・児童生徒等で、教育文化活動・スポーツ活動において優秀な成績を収めた団体及び個人を表彰することで、能力開発や健全育成を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	表彰基準に該当する者で学校長及びスポーツ少年団本部長から推薦があった者の中から教育委員会が審査し、各賞を決定する。表彰式は年1回実施。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	特別優秀賞	該当者なし	個人の部2名	団体の部1団体、個人の部1名
	最優秀賞	個人の部6名	個人の部3名	個人の部9名
	優秀賞	団体の部4団体、個人の部23名	団体の部3団体、個人の部14名	団体の部1団体、個人の部16名
優良賞	団体の部8団体、個人の部43名	団体の部2団体、個人の部29名	団体の部8団体、個人の部24名	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			B (イ)、(エ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			B
評価の説明	平成27年度より七戸町教育奨励賞表彰要綱を新たに整備し、表彰基準を満たした者から審査した。県大会以上の大会を表彰基準とすることや、曖昧であった高校生の文化活動に対しても表彰することなど基準を明確にした。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	少子化が進む中、表彰基準を上げることで、表彰の形骸化を回避し、児童生徒等にとって文化活動、スポーツ活動の競技力の向上や励みになるよう選考基準等をさらに検討する余地はある。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(2)②	担当課	学務課	担当者	上野 司
事業名	教育福祉援助基金給付事業				

事業費	年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
		決算額(千円)		1,500	1,500
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		1,500	1,500	1,500

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	高等学校・高等専門学校へ進学し、勉学に意欲的に取り組み、他の模範となる生徒に対し、七戸町民として自覚と誇りを持ち学業に励んでもらうために、入学祝金として奨学金を授与する。	<input type="checkbox"/> 内容	出願資格は、七戸町民で、七戸町内の中学校第3学年に在学し、願書提出翌年度に高等学校・高等専門学校へ進学する者で、学業優秀な者(成績評定が3.5以上)であること。

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
給付金額		50,000円	50,000円	50,000円
給付者数		30人	30人	30人

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	奨学金獲得のため、生徒の勉学意欲の向上にも結び付く部分もあるようで、非常に喜ばれている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	開始から30年以上続く事業であり、また生徒保護者に対しても喜ばれていることから、寄付金の残金がある限りは継続することが望ましい。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(2)④	担当課	学務課	担当者	濱谷 舞
事業名	七戸町学校おもいやり事業費補助金事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	決算額(円)		1,200,000	1,000,000
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	1,200,000	1,000,000	999,916

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	児童生徒の「生きる力」をはぐくむため、教育活動・学校行事(文化芸術事業・体育事業等)などの学校教育課程に位置づけられる教育活動を推進し特色ある学校づくりを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	各小中学校が、通常の授業では得ることのできない教育活動を企画し、予算の範囲内において、学力向上を掲げる教科の教材費や専門的な知識・技術を有する外部講師に対する謝礼金等各学校において柔軟な事業を実施した。

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
対象小学校件数		4校	4校	4校
小学校補助金額		690,000円	560,000円	574,916円
対象中学校件数		3校	3校	3校
中学校補助金額		510,000円	440,000円	425,000円

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	B
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	B
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託	(エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	(イ)、(オ)
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	B
	優先性が高い	低い	
評価の説明	学校行事等を自由に計画できることから、各校からは、好評を得ている事業である。平成27年度と同様に、学校の規模(児童生徒数等)により補助金の配分を決定した。各校で実施された事業が「特色あるもの」につながるかどうかはまだ判断するには難しい。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本事業は、平成26年度からの事業で、現時点で目的を達成できているかどうか判断するのは難しい。各学校からの事業継続の要望は大きい、各学校の特色を出すための手段が補助金形式がよいのかどうか、実施された事業による効果をどう判断するのも含め今後の検討を重ねていく必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	1(3)②	担当課	学務課	担当者	高田 理恵
事業名	七戸町学校保健会補助事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	200	200	200	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	200	200	200		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	七戸町内の幼稚園・保育園・小中学校及び七戸高校・七戸養護学校の児童・生徒の健康増進を図る。また、養護教諭、保健主事の資質向上を図る。	①学校保健衛生の施策に対する協力 ②保健衛生思想の普及啓発 ③学校保健に関する調査研究・事業計画および実践 ④学校関係者の指導および研修 ⑤学校保健施設の助成 ⑦家庭における保健思想の啓発 ⑥学校保健資材の斡旋 ⑧学校給食の実施・促進及び管理指導

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	全国学校保健主事・学校保健研究大会研修	大分県「養護教諭の専門性を活かした『生きる力』を育む健康教育の進め方」	愛媛県「子供たちの意志決定能力を育てる～健康教育とライフスキル教育のコラボレーション」	北海道「子供たちの学校生活を護るための校内連携と他職種連携」
	七戸町学校保健研究大会	七小「姿勢について考えよう！～2年間の実践を通して～」	天中「清掃時体育(マッスル)で体力づくり」	城南小「生活習慣の確立は一生もののプレゼント」
保健主事研修会	7月:体の歪みチェックの仕方と矯正の方法	7月:花に触れ合うということ	7月:水と健康についてのお話	
〃	1月:普通救命講習会	1月:普通救命講習会	1月:普通救命講習会	

事業評価	評価項目	評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	学校や地域、家庭などに健康に関する啓蒙活動を行うことにより、多方面から子どもの健康増進を図った。また、保健関係の研修へ積極的に参加し、養護教諭の資質向上に努めた。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	七戸町の園児・児童・生徒の健康増進や、生涯にわたり心豊かにたくましく生きる子どもを育成するため、学校・地域・家庭それぞれが重要な役割を担うことになる。その連携を図る事業のため、今後も継続して行うことが必要と考える。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(3)③	担当課	学務課	担当者	中村 大樹
事業名	七戸町児童生徒対外遠征費補助事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	決算額(千円)	1,894	1,974	1,228
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	1,894	1,974	1,228

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	小・中学校における部活動において、遠征費の一部を補助することで部活動の推進及び競技力の向上並びに児童生徒の安全確保を図るとともに、保護者等の経済的負担を軽減する。	県大会以上の大会へ参加した、七戸中学校7団体、天間館中学校5団体、榎林中学校3団体の延べ26大会に対して、参加料、プログラム代、食糧費、交通費、宿泊費、借り上げ料等を補助した。 うち東北大会へ1団体/1大会、3個人/3大会が出場した。全国大会への出場はなかった。

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
小学校対象件数	1件	0件	0件	
小学校補助金額	10,000円	0円	0円	
中学校対象件数	31件	33件	26件	
中学校補助金額	1,883,750円	1,973,729円	1,227,778円	

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	B	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	B	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	本事業は、県大会以上の遠征費の一部を補助することで、児童生徒の体育活動及び文化活動活性化の一翼を担っている。特に東北大会、全国大会など県外の遠征は、交通費及び宿泊費等の負担が大きくなることから、保護者及び指導者等の上位大会出場に対する経済的負担を軽減することで、積極的な教育活動に有効性が認められる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本事業は、保護者及び学校側から要請される事業であるが、基準に従い、公正かつ公平性を保持して運用を行い、事業を継続する。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(3)④	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	6,304	5,950	5,595	
	財源内訳	国・県支出金	38	85	93
		その他			
		町債			
一般財源	6,266	5,865	5,502		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町就学援助費支給要綱に基づき、経済的に困窮し、就学困難な児童生徒の保護者から就学援助申請があった場合は、世帯の経済状況を審査し認定する。援助対象費目は、学用品費、通学用品費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費等。 なお、要保護児童生徒に関しては、修学旅行費を支給する。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	援助費支給額実績(円)	6,303,134	5,949,934	5,594,921
	準要保護支給対象者	141	136	136
	要保護支給対象者	9	2	2

事業評価	評価項目			評価	
	事業	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	経済的困窮世帯が多く、就学援助の必要性は極めて高い。 平成25年度から給食費補助事業が開始されたことにより、給食費については区域外就学児童生徒の保護者(町立小中学校に就学する児童生徒の保護者で町外に住所を有する者)のみが補助対象となっている。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	経済的困窮世帯が増加している中、当該事業の必要性は高いことから、今後も事業を継続していくとともに、認定基準の明確化及び手続き効率化の検討も続ける。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(3)⑤	担当課	学務課	担当者	濱谷 舞
事業名	学校給食費給付金交付事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	54,827	52,902	51,108	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	54,827	52,902	51,108		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	小・中学校の学校給食費用を保護者に支給し、経済的負担を軽減し、少子化対策及び子育て支援の充実を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	町内外の小・中学校に在籍する児童生徒の保護者で、町内に住所を有する者を対象とし、学校給食費に相当する額を給付。国又は地方公共団体の負担において給食費の全部又は一部について給付等を受けた場合は、当該給付金の額から当該給付額に相当する額を控除した額とする。生活保護受給者、町外に住所のある区域外就学者の保護者は対象外。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	小学校	699 (町内4校、町外2校)	682 (町内4校、町外4校)	680(町内4校、町外5校)
	中学校	406 (町内3校、町外4校)	412 (町内3校、町外5校)	364(町内3校、町外7校)
	特別支援学校・学級	2	2	1

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
		(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
		(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	B
	優先性が高い		低い	
評価の説明	保護者の経済的負担が軽減されるため、事業の必要性は高い。町外学校在籍且つ他の援助制度を利用する者には、支給額を調整し公平に配分した。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	事業目的の少子化対策については達成されているか判断が難しいが、経済的負担の軽減の面から事業継続の必要と考える。対象者の状況によっては、他課や他市町村からの情報提供が必要なため、手続きの効率化や公平性について検討する必要があると考える。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)①	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	特別支援教育支援員配置事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決 算 額(千円)	16,361	17,672	17,532	
	財源内訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
	一 般 財 源	16,361	17,672	17,532	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	<p>小・中学校の通常学級及び特別支援学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の学習指導の補助、生活指導の補助及び介助等を行うことを目的に、各小・中学校に特別支援教育支援員を配置する。</p> <p>学校長の指揮監督のもと、学級担任と連携し、次の支援を行う。 ①基本的な生活習慣確立のための学校生活上の介助 ②学習補助 ③学習活動、教室間移動等における介助 ④校外行事や運動会等、各行事における介助</p>	

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	配置校・支援員数	小学校 4校 ・ 9名 中学校 3校 ・ 5名 幼稚園 1名	小学校 4校 ・ 11名 中学校 2校 ・ 5名	小学校 4校 ・ 12名 中学校 2校 ・ 4名

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	<p>学校生活を送る上で、特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、個々の状態に応じた適切な教育環境を充実させるため、重要な事業となっている。</p>			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	<p>今後さらに重要性が増していくと考えられる。適切な支援をしていくためには、専門的な知識を身に付け、具体的な支援技術を習得していく必要がある。各種研修会を利用して、支援員の資質向上に努めなければならない。</p>
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)②	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	学校生活相談員配置事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	3,812	4,052	4,129	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		3,812	4,052	4,129	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	児童生徒の悩みや不安などを解消し、安心して充実した学校生活を送れる環境づくりを進める。 また、教職員と連携し、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を行うことを目的とする。	学校長の指揮監督のもと、児童生徒の悩みや不安解消のため個別にカウンセリングを実施したり、いじめや不登校児童生徒の指導を行うため、次の支援を行う。 ①児童生徒や保護者の悩みに対する相談対応 ②児童生徒の学校生活の適応援助 ③地域と学校の連携支援 ④その他学校における教育相談活動の支援

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	配置校・相談員数	七戸中学校 1名	七戸小学校 1名	七戸小学校 1名
		天間館中学校 2名	城南小学校 2名	城南小学校 1名
		榎林中学校 1名	七戸中学校 1名	天間西小学校 1名
			七戸中学校 1名	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)			A
	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			
	②妥当性(町が行うべきですか)			A
	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)			A
	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)			A	
A 公平に配分されている B 公平に配分されていない				
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)			A	
A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)			A	
A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い				
評価の説明		児童生徒の不登校やいじめ問題は深刻化しており、憂慮すべき状況にあると言える。 そのことから本事業の必要性はさらに高まっている。 児童生徒が気軽に、そして素直に話すことができるように第三者的存在として活動している。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	児童生徒から徐々に受け入れられるようになってきていることに伴い、気軽な相談等があり、ストレス軽減にもつながっていると考えられる。今後も配置の必要はあり、それぞれの学校の状況に応じた配置を考えていかなければならない。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)③	担当課	学務課	担当者	高田 理恵
事業名	就学指導委員会				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	-	-	-	
	財源内訳	国・県支出金	-	-	-
		その他	-	-	-
		町 債	-	-	-
一般財源		-	-	-	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	保護者の希望により障がいのある、又は、発達や行動の気になる児童生徒にとって、適切な教育の場を決定できるよう専門知識のある者によって構成された就学指導委員会において一定の判定をする。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町と東北町とで共同設置の中部上北就学指導委員会 (1)障がいのある、又は、発達や行動が気になる就学予定児、児童及び生徒の適切な教育措置に係る総合診断 (2)就学に係る教育相談 (3)その他、中部上北広域事業組合教育委員会教育長が必要と認めた者
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

7	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	対象児童生徒数	21	20	17
	入級判定者数	17	16	11
実入級者数		11	15	10

		評 価 項 目	評 価
事業評価		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	教育委員会、健康福祉課、各園、各小中学校で早い段階から意見交換や情報提供を行うことで、実際の就学相談へスムーズに繋げることができている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(依然として保護者への「就学相談」に対する認識が薄い部分があるため、就学相談の対象となる年長児の家庭だけではなく、年中児の家庭への周知活動を行うことが必要と考える。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(5)①	担当課	学務課	担当者	高田 理恵
事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	8,390	9,036	8,780	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	8,390	9,036	8,780		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	外国語教育の充実を図るとともに国際交流の推進を図り、国際理解教育の推進を図ることを目的とする。	JETプログラム(語学指導を行う外国青年招致事業)を活用し、2人のALTを町内の幼・小・中学校、保育園に派遣し、外国語教育の充実を図っている。 ①学校における外国語授業の補助 ②学校における外国語活動の補助 ③特別活動及び課外活動への協力 ④外国語担当教員の研修補助 ⑤外国語教材の作成の補助及びスピーチコンテスト等への協力 ⑥地域における国際交流活動への協力

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	ALT派遣校等	幼稚園 1・保育園 6	幼稚園 1・保育園 6	幼稚園 1・保育園 6
		小学校 4	小学校 4	小学校 4
		中学校 3	中学校 3	中学校 3

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	幼少期から生きた英語に触れることで英語を身近に感じることができ、興味関心を高めることができています。教育委員会、民間委託業者、中部上北広域事業組合に所属しているALT3名を七戸町内の各園・各校に派遣した。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	小学校からの英語教科化に向けて、ネイティブスピーカーとの交流は今後さらに重要になってくるため、継続する必要があると考える。またそれに合わせて、従来の配置計画を見直す必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(6)①	担当課	学務課	担当者	高田 理恵
事業名	七戸町教育振興会補助事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	2,400	2,383	1,956	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	2,400	2,383	1,956		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	幼児・児童・生徒の教育文化及び体育の振興と教職員の資質向上に係る事業を行い、教育の振興を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	○幼児・児童・生徒の教育、文化及び体育の振興事業 スポーツ交流会、小・幼・保育園交流会等 ○教職員の資質向上事業 ふるさと研修、教育講演会、研究活動等

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成
	体育・学芸委員会	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成
	職員研修	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等
	教育講演会	学校におけるメンタルヘルスの実践―実例検討より―	エビベン講習会・食物アレルギーに関わる講話	エビベン講習会・食物アレルギーに関わる講話
先進校等研修(幼・保育園)実施	7校・7(園)	7校・7(園)	7校・7(園)	

事業評価	評価項目	評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	七戸町や各園・各校の教育目標達成のために事業を実施。研修委員会では幼・保・小・中連携活動を実施し、横断的な交流を行った。また、各教員の資質向上を目的に、研究や研修に積極的に取り組んだ。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	幼児・児童・生徒の教育や文化、体育振興のため、幼・保・小・中の枠を超えて連携を図る組織であることから、今後も継続すべきと考える。今後の課題は、学校規模に合わせた予算配分をするともに、使用された内容の精査をすることが必要。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(6)②	担当課	学務課	担当者	田村 教男
事業名	ふるさと研修事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	22	22	10	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	22	22	10	

事業概要	□ 目的	青森県教育委員会が定める初任者研修実施要領に基づき、七戸町教育委員会研修として、七戸町教職員初任者及び赴任者を対象に七戸町の教育課題や文化、歴史等について理解を深めることを目的に開催した。	□ 内容	七戸町発展のあゆみや産業、文化について研修した。今年度は、食物アレルギー研修後に、史跡二ツ森貝塚、史跡七戸城跡、ひげ塚公園、見町観音堂、銀南木を見学した。
------	------	--	------	---

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	参加者: 教職員	20人	26人	20人
	教育委員会	3人	1人	1人
	合計	23人	27人	21人

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			B
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	七戸町へ赴任してきた教職員を対象にした研修で、町内の文化財等を実際に見学できたことは、教育課題等の理解を深めるうえで大きな成果であった。また、各学校の枠を超えて一緒に研修、交流できたことも大きな成果であった。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	研修場所が広範囲にわたるため、施設間等の移動に時間を要し、十分な研修、見学時間がとれなかった。今後は、本研修が児童生徒の学習活動に役立つよう、講師及び参加者から意見を聞き、内容を充実していきたい。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	2(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	中嶋 百華
事業名	家庭教育支援総合推進事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)		523	516	518
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
	一般財源	523	516	518	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	<p>家庭における子育てやしつけなどを見つめ直すきっかけを作るため、町内の子ども園、保育園、子育て支援センター、全小中学校において親などが参加する様々な機会を活用した家庭教育に関する学習機会の提供を行う。</p>	<p>町内の子ども園、保育園、子育て支援センター、全小中学校での子育て講座、家庭教育講座の実施。</p>

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	実施講座数	34	35	40
	参加者数	1,323	1,385	1,204
	実践プログラム等	1回(打ち合わせ等3回)		
	参加者数	70		

事業評価	評 価 項 目		
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	<p>家庭教育力の低下が指摘されている中、保護者が多数集まる参観日などの機会を利用し実施する子育て講座・家庭教育講座・思春期講座などの実施は非常に重要である。また、対象の全施設で実施しており、講師も町内在住の指導者を活用するなど、学校・家庭・地域の連携が図られてきている。</p>		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	<p>対象の施設において親子で家庭教育講座などに参加する機会は重要であり、それぞれの施設で保護者のニーズにできるだけ応じた講座を実施しており、今後も事業継続要望があるため予算の確保に努める。</p>
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	2(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	二宮 渉
事業名	学習支援事業(夏休みわくわく学習ひろば)				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)		38	14	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源		38	14	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	夏休みの終盤に学習する場所を提供し、宿題の進捗状況が良くない児童・生徒をフォローすることで、夏休み明けの出校への心理的負担を軽減させることを目的とする。また、家庭事情により保護者が学習状況を見てあげられない児童・生徒にも対応できるようにする。加えて、大学生と触れ合うことで、大学進学に対するイメージをもってもらう。	8月18日～19日の2日間、中央公民館と南公民館の2箇所で開催した。参加者は小学生4名であった。講師は教員1名、塾講師1名、大学生1名、高校生1名の計4名がボランティアで参加した。

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	中央公民館参加者数(累計)		9	0
	南公民館参加者数(累計)		33	4

事業評価	評価項目				
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			B
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている B 効果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			C

評価の説明	平成27年度に開始した事業で、講師はボランティアの大学生と高校生、塾講師、教員が務め内容も充実していた。また、長期休業後に不登校になる生徒・児童が見られなかったため、一定程度の成果があったものと考えられる。
-------	---

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今年度は、事業の周知方法など工夫したものの、参加者がほとんどなかったため、必要性は低いものと考えられる。また、夏休み明けに不登校になる生徒・児童の報告が無いことから、当初の目標を達成したものと考えられるため平成28年度をもって事業廃止とする。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	2(1)④	担当課	生涯学習課	担当者	中嶋 百華
事業名	ふるさと学びあい推進事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	319	700	491	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源		319	700	491	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	将来の七戸町を担う子供たちに、自分の生まれ育った「ふるさと」の自然、歴史、文化、産業、生活などについて学習し、理解を深めるための機会を提供し、学校や家庭生活では体験できない様々な活動プログラムを提供し、子供たちの視野を広げ、友情を深め、自立心を養うことを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	①郷土学習事業 ふるさとの歴史を学びながら、当町にゆかりのある地域を訪問し特有の文化に触れながら郷土への誇りと愛着を育む。平成28年度は平成・南部藩子どもサミットと共催で実施。構成9市町村の小学生が七戸城跡見学や絵馬づくり体験を1泊2日で行い交流を図った。 ②キャリア教育事業 七戸町の産業について学ぶため、トマトの植付と収穫を行い、オータムフェスタにおいて収穫したトマトを加工したピザの販売を行った。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	郷土学習事業 参加者数	11	11	20
	キャリア事業 参加者数	4	38	22
	キャンプ事業 参加者数	10	14	-

事業評価	評 価 項 目			
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
評価の説明	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)			
	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明		子供たちが、一步進んだ学習をすることのできる場と、今まで気づくことのなかった七戸町の良さを知ることのできる機会を提供することができた。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	子供を対象に行っている他の事業や学校行事などの日程調整を密に行い、できるだけ多くが参加できるよう配慮していく。また、学習内容についても、各学校との連携をしながら、より魅力的なプログラムを提供できるよう事業内容について検討していく。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	2(1)⑤	担当課	生涯学習課	担当者	今泉 今日子
事業名	異文化交流事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)		200	1,065	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			587
		町債			
	一般財源			478	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	学校の教室以外にも外国文化に触れる機会を提供し、異文化への理解とさらなる学習意欲の向上を図り、国際化に対応できる人材の育成に貢献する。	<p>①イングリッシュデイ 小学生を対象に11月4日と11月12日の2日間、コミュニティフリースペース(インテリアユニオン石源)にて、外国人講師2名により実施した。参加者3名に対して、アメリカのクリスマス文化を紹介しながら、一緒にクリスマスリースなどを手作りし、英語でのコミュニケーションを楽しんだ。</p> <p>②イングリッシュキャンプ 小中学生を対象に12月25日～26日の1泊2日で福島県のブリティッシュヒルズで実施した。小学生3名中学生8名の計11名が、英語レッスンや外国文化を体験し、語学力とコミュニケーション能力の向上を図った。</p>

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	イングリッシュデイ参加者数			3
イングリッシュキャンプ参加者数		15		11

事業評価	評価項目			
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (イ) (エ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		B
評価の説明	事業完了時の参加者アンケートでは「楽しかったので来年も参加したい」、また、保護者アンケートでも「このような機会を増やしてほしい」などの意見が多数あり、高い満足度であったという結果を得られた。さらには、子供たちの感想から、この事業をきっかけに、海外文化への関心の高まりや、外国人に積極的に接しようとする姿勢の変化が見受けられたので、事業実施の効果は高いと思われる。ただし、平成28年度は外国人講師派遣を含む事業実施を他県の事業者へ委託せざるを得なかったため、事業費が高額になった。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	これからのグローバル社会に適応できる子供たちの育成のため、今後も学習意欲の向上に繋がる内容を検討しながら、英会話力や異文化への興味や関心を高める事業を実施する。事業内容については、他事業との連携により効率化を図ること、また、事業費については、町内在住の外国人講師の協力可能な体制を整えることにより削減を図る。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	3(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	今泉 今日子
事業名	文化芸術鑑賞事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	176	1,086	1,172	
	財源内訳	国・県支出金		1,086	585
		その他			
		町債			
一般財源	176		587		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	子供たちが個性豊かで魅力ある地域社会において、潤いのある豊かな生活を営むことができるよう、文化・芸術、異文化を体験することで文化・芸術、異文化に興味を持つきっかけをつくり、更には子ども自身の創造的な能力を高めることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	文化・芸術に寄与する事業の開催および芸術鑑賞・体験 人形劇2回、音楽体験1回、バレエ体験2回、ヒップホップ体験1回、パルーンショー・パルーン体験1回、森のコンサート1回、鼓笛隊研修3回、絵画教室4回、茶道教室10回、日舞体験教室14回、ダンス教室7回、習字教室6回・・・計52回
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	鑑賞者数	463	2,074	1,652

事業評価	評価項目			
	①	必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②	妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③	有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④	公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤	効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥	優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	<p>普段触れる機会が少ない様々な芸術や文化を間近で触れることができ、非常に有意義な事業になっている。当事業をきっかけに芸術関係の習い事を始めたケースもあり、アンケート結果においても「芸術関係の習い事をしている」が12%→20%に、「これから行く」が15%→49%となるなど、成果は上がっている。</p>			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	総合戦略の中の「教育環境の強化など子育て環境の充実」に当事業が位置づけられて2年になるが、徐々に芸術・文化の教育に取り組む子ども園・保育園などが増えており、ニーズが上がっていることから、今後も同様の体験事業を実施する。事業の評価については、事業実施後のアンケートにより実施する。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	3(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	今泉 今日子
事業名	オータムフェスタ(文化部門)開催事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	910	1,400	2,710	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	910	800	710
		町債			
一般財源			600	2,000	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町経済団体並びに文化団体などが一丸となり、まつりイベントを開催することで、地域産業及び文化などの振興発展に寄与する。 平成28年度より商工部門が別事業へ移行したことにより、生涯学習課がイベント全体の統括となる総務部門と従来の文化部門を担当している。	<input type="checkbox"/> 内容	しちのへオータムフェスタ実行委員会を組織し実施した。 期日：平成28年10月29日(土)、30日(日) 場所：七戸町屋内スポーツセンター 内容：農林部門(農産物共進会、各団体活動展示・販売) 文化部門(舞台発表、作品展示、キャリア教育事業)
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	参加団体数	34	54	文化部門69、農林部門19
	入場者数		1,438	1,763

事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A

評価	評価の説明	平成28年度より農林部門と文化部門の2部門体制での開催となり、生涯学習課が主管となった。農林部門はほぼ昨年度と同規模の出展数となり、文化部門についても微増となった。また、入場者数も325名増加しており、農林部門が加わったことによる集客効果と考える。 本事業は町民が日頃の活動の成果を披露することができる唯一の場であり、町の農業・文化振興のために必要な事業である。昨年度よりも多くの団体の出演・出展があり、町民ニーズの高さが現れている。農林部門の参加賞や、文化部門の記念品のさらなる簡素化でコスト削減は可能である。
----	-------	---

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	平成28年度は入場者数が増加したが、内容は従来の事業を踏襲したものであり、新しい企画を求める声も多い。事業そのものの町民ニーズは高いので、団体の協力を得ながら魅力あるイベントづくりをしていく必要がある。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	3(2)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	世界文化遺産登録に向けた取り組み				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	決算額(千円)		961	3,262
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	961	3,262	2,069

事業概要	□ 目的	□ 内容
	国史跡二ツ森貝塚が世界文化遺産登録の構成資産となっていることから、青森県などと連携を図り登録を目指す。また登録に向けての課題についても対策を行っていく。	世界文化遺産の登録に向けたPR活動 史跡二ツ森貝塚保存活用計画を策定 七戸十和田駅から二ツ森貝塚への道路案内標識の設置 県重宝指定の出土品のレプリカを製作し、展示室(中央公民館2階)の充実及び来客者へ対応の強化

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
見学者(推定)		約1000人	約1000人	約1000人

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)		A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない		A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある		A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
	優先性が高い		低い	
評価の説明	世界文化遺産登録に向けて、平成20年度から本格的な専門家会議などが幾度となく開催されてきて、その中で縄文遺跡が果たして世界遺産となるのかということも議論として出ている。また日本国内に縄文遺跡が数多くあるが、なぜ北海道・北東北地方だけなのかと言われたときにはどうするのか、などの意見もある。構成資産は18遺跡であったが、推進本部会議で不備なものや、説明のつかないもの2件が外された。当町の課題である「保存活用計画」は策定することができた。今後は二ツ森貝塚の周辺にガイドンス施設の設置を検討していかなければならない。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本事業は七戸町だけで決められるものではなく、世界文化遺産の登録に相応しい構成資産ということなので、その推移を見守りながら対応をしていくことになる。ただ七戸町としての課題としては、二ツ森貝塚の近くにガイドンス施設が作られ広く活用される仕組みづくりが必要となってくる。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(2)③	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	史跡土地買上げ事業				

事業費	財源内訳	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
		決算額(千円)	0	50,970	43,229
国・県支出金		40,776	34,363		
その他					
町債					
一般財源		10,194	8,866		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	国史跡の指定を受けている二ツ森貝塚及び七戸城跡を保護するため土地の買上げを行う。	土地の買上げ及び移転補償を行うため、不動産鑑定及び建物等移転補償費調査委託を行い、適正な土地価格と補償額で買上げを行う。 史跡二ツ森貝塚: 12, 368.00㎡(9筆) 史跡七戸城跡 : 1,213. 91㎡(3筆)

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
取得面積		—	1,273.84㎡	13,581.91㎡

事業評価	評 価 項 目		評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	史跡二ツ森貝塚については、世界文化遺産登録に向けて、平成27年度に国史跡の追加指定を受けた史跡を保護するため、平成27年度から毎年計画的に土地の買上げを実施する。 史跡七戸城跡については、財政事情等により平成20年度以降の買上げが中断されていたが、二ツ森貝塚の史跡買上げとの整合性から、長年待たせていた希望者についても七戸城跡の史跡保護のため買上げを実施する。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	史跡指定により長芋の作付が出来なくなったり、個人住宅の老朽化による建替え希望者があり、生活に支障をきたしている地域住民がいることから、購入順位の考えを地権者に示し、計画的に毎年継続して土地買上げを行う。 なお、土地購入費の8割は国補助対応となるが、残りの2割は一般財源となるため、財政状況と見合わせながら進めていくことになる。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	3(4)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	金見 真樹
事業名	文化交流センターの活用の充実				

事業費	年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
	決算額(千円)		974	884	88
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		974	884	88

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	文化交流センターは、歴史民俗資料館としてのほか、文化財の保管場所にもなっている。それらを活用して町の文化を紹介する。また、西野分館や避難場所にもなっており、施設の維持管理も図る。	<input type="checkbox"/> 内容	文化交流センターの2階部分が歴史民俗資料館のように、当町に残る文化財資料の保存と整備を行っており、常時公開はしていないが、事前申し込みにより町内小中学生等の学習見学に対応する。 南公民館の西野分館の機能や避難場所になっているため、草刈りや清掃等施設の維持管理を行う。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)				
利用者数		1,070	565	319	

事業評価	評価項目		評価
		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	B
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	B	
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	B	
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	C	
評価の説明	文化交流センターは複合施設として平成17年度から供用を開始した。主なものは児童館施設としての役割、そして歴史民俗資料館としての文化財の保管保存、さらに体育館施設からなっていた。しかし児童館は統合され廃止されてしまった。現在は常勤者もいなく平日は鍵がかかけられ、町内の小中学生等による文化財見学のために年に数回公開している程度である。 体育館施設及びグラウンドについて、H27年度から生涯学習課で管理運営するよう事務改善を図っており、平成28年度からは電気・水道料も体育施設で主に使用していることから、生涯学習課に所管替えした。		

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	歴史民俗資料館として、歴史文化等を紹介できるものとなっているが、常勤者がなく、役場や市街地から離れ、また、展示物を紹介できる職員も限られており、事前申し込みをした団体のみにしか公開できない状態となっている。また、分館機能や避難所施設など不特定多数が利用できる状態となっており、文化財の保護上問題がある。そういったことから、今後、常時見学ができる体制づくりや防犯上整った資料館の整備が必要と思われる。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	小林 義博
事業名	七戸町ジュニアスキースクール				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	128	128	144	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	128	128	144		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スキーの基本練習を通し、技術の向上とスキーの楽しさを体験するとともに、健康及び体力の増進を図ることを目的とする。 また、参加者同士が行動をともにすることにより、望ましい人間関係を育む。	<input type="checkbox"/> 内容	対象 町内の小学生(1年～6年) 講師 七戸町スキークラブ員 回数 4回

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
参加者数(延べ人数)		340名	352名	384名

評 価 項 目		評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	アルペンスキーの講習会として町内在住の全小学生を対象としており、雪国の冬期間のスポーツとして参加者が増加傾向にあり、他校の生徒との交流の場として、町民のニーズは高いと思われる。 また、町スキークラブと連携して事業実施しており、クラブ主催大会への参加者も増加しており成果を上げている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	①各小学校でもスキー教室は行なっているが、その機会は少なく、町主催のスキー教室の継続は必要である。 ②スノーボードが普及してきたため、指導者を確保し講習会の開催を検討する。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	田栗 昌弘
事業名	町民スポーツ交流会				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	478	438	250	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	700	478	250		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	広く町民にスポーツ・レクリエーション活動の場を提供することにより、生涯を通じたスポーツ活動への参加意欲を喚起するとともに、生涯を通じたスポーツ活動への実施を図ることにより健康保持、体力増進及び相互の交流を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	平成25年度より「七戸ギネスチャレンジ」と名称変更し、誰でも気軽に参加出来る種目とし、七戸独自の記録として毎年新記録を目指し参加を募る。 対象 町民(個人、町内会、分館、スポ少単位) ※幼児から高齢者まで
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)	7種目	7種目	5種目
	七戸ギネスチャレンジ	10団体 252名	10団体 234名	10団体 192名

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	誰でも参加できる競技を取り入れ、競技時間も短縮するように努めた。 また、参加しやすい種目を増やすことにより、参加者のスポーツ活動への意欲を高めている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	①地域間の交流のため、広く町民が参加できるよう工夫が必要である。 ②参加者が減少傾向にあり、種目の選定や参加対象者、周知方法など検討する必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	4(1)③	担当課	生涯学習課	担当(記入)者	小林 義博
事業名	体育協会加盟団体によるスポーツ大会				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	4,701	4,239	4,166	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	2,961	2,569	2,375
		町 債			
一般財源	1,740	1,670	1,791		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	体育協会加盟団体による教室及び大会開催費に対する支援をすることで、地域スポーツ活動の普及・奨励に努める。各競技による通常の大会とは別に、広く町民を対象とした生涯にわたるスポーツライフの実現を図る。	○体育協会加盟団体主催ナイターリーグ大会 (フットサル、バドミントン、バスケットボール、バレーボール) ○体育協会加盟団体主催大会等 (朝野球、壮年スポーツ大会、ソフトテニス大会、剣道大会、ゲートボール大会、ボウリング大会、グラウンド・ゴルフ大会、町民登山) ○体育協会加盟団体主催教室 (水泳教室、ジュニアベースボールスクール)

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	教室・大会数	2教室等、14大会	2教室等、15大会	2教室等、14大会
参加者数(人)	2,490名	2,574名	2,330名	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	体育協会加盟団体ほぼすべてが、目的に沿った事業を展開できている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	事業の継続と更なる充実を目指し、各加盟団体と連携を図る。また、各加盟団体から課題並びに要望等を十分に聴き取り、事業の改善に努める。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(2)①	担当課	生涯学習課	担当者	坂本 雄大
事業名	七戸町長杯野球・ソフトボール大会兼七戸地区防犯野球ソフトボール大会				

事業費	年度		平成26年	平成27年度	平成28年
	決算額(千円)		235	221	234
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	168	155	165
		町債			
一般財源		67	66	69	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	七戸町及び東北町管内の小・中学校の野球・ソフトボールの技術の向上と児童生徒の交流を図り相互の連帯意識を高めるとともに、心身の健全育成を図ることを目的として開催する。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町・東北町(旧中部上北4ヶ町村)のスポーツ少年団・中学校対抗の野球・ソフトボール大会を開催する。中部上北防犯野球・ソフトボール大会の流れから、夏休み中に開催している。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)				
	参加チーム数・小野球		5チーム	5チーム	5チーム
	参加チーム数・小ソフト		4チーム	4チーム	3チーム
	参加チーム数・中野球		5校	3校	4校
参加チーム数・中ソフト		3校	3校	3校	

		評価項目	評価
事業評価		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B (ウ)
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	B
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	B
	評価の説明	野球・ソフトボール以外にも多数の競技種目があり、左記種目に限定するのは公平さに欠ける。また、各種目とも多数の大会があり、町が主催する必要性も薄れている。	

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	参加チームの減少や日程調整が困難であるため、平成28年度をもって廃止とし他種目等での開催を検討する。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)②	担当課	生涯学習課	担当者	坂本 雄大
事業名	青森県民駅伝競走大会				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	882	854	872	
	財源内訳	国・県支出金	60	60	60
		その他			
		町債			
一般財源		822	794	812	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	大会を通じて七戸町民の一体感を高めるとともに、スポーツ(陸上競技)に対する理解と関心を高め、活力ある町づくりとスポーツ振興を目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	県内全40市町村が参加し、青森市内の8区間を市の部・町の部・村の部でそれぞれ競う。町の部4位、総合10位の成績であった。 選手 ・一般男子 7人(一般 4人 大学生 2人 高校生1人) ・中学生男子 4人 ・女子4人(大学生 2人 中学生 2人)
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)	町の部 5位 総合 12位	町の部 5位 総合 11位	町の部 4位 総合 10位

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	町民が一体感を強めることができるスポーツイベントで、毎年入賞を目指し選手の強化を図っており、県内トップクラスの選手育成も成されている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	中学生区間を走る選手の確保が課題であり、町内中学校と連携し選手の発掘を行う。 また、大学生・一般選手の情報を早い段階で把握し、選手の決定を円滑に行う。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)③	担当課	生涯学習課	担当(記入)者	小林 義博
事業名	体育協会補助事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	2,410	2,410	2,184	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	760	779	534
		町 債			
一般財源	1,650	1,631	1,650		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	体育協会及び加盟団体への活動支援	<input type="checkbox"/> 内容	体育協会及び加盟団体の活動(組織運営・事業等)に対する支援事業

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	体育協会加盟団体数	21団体	21団体	21団体
体育協会加盟人数	934名	654名	647名	

評 価 項 目		評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	スポーツを通じた町の活性化を図るためには、体育協会の力が必要不可欠であり、組織運営上の支援としては最低限補助できている。 体育協会加盟団体へ交付している活動費補助金について、新たに算定基準を設け明確化を図った。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	競技人口の高齢化、減少に歯止めをかけるため、指導者の育成や幼少期からの育成等、スポーツとふれあう環境づくりが必要であると思われるため、各加盟団体と検討、協議を行っていく。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)④	担当課	生涯学習課	担当者	坂本 雄大
事業名	七戸町スポーツ少年団活動費補助事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	1,230	1,220	1,900	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	1,230	1,220	1,900		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	<p>町民の健康維持・増進および体力・競技力の向上、更には次世代を担う子どもたちへのスポーツの普及と健全育成を図るため、町内で子どものスポーツ活動を行う団体へ支援する。</p> <p>地域型少年団への完全移行に伴い、指導者への報酬及び旅費、子どもの送迎経費等に充てる目的で平成24年度より補助を開始している。</p>	<p>七戸町からスポーツ少年団へ補助 補助対象経費</p> <p>①指導者への報酬及び旅費 ②活動送迎経費 ③需用費、役務費、使用料、賃借料、負担金の一部</p>

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
単位団・登録者数		18団 332名	18団 341名	18団 328名

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	地域主体のスポーツ少年団が、活動する上での支援は今後も必要である。			

今後の取組・課題	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他() </p>	<p>スポーツ少年団を更に活性化していくために、さらなる団員の確保のための取り組みを本部役員及び各単位団長と協議し行っていく。 平成28年度から七戸町スポーツ少年団支援補助事業を統合した。</p>
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(2)⑤	担当課	生涯学習課	担当(記入)者	小林 義博
事業名	体育協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	783	900	863	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	783	900	863		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	体育協会及び加盟団体が町代表として地区大会並びに上位大会出場機会を支援し、競技力向上と指導者の資質向上を目的とする。	上北郡総合体育大会・北奥羽総合体育大会・青森県民体育大会への参加に伴う費用の一部を補助する。 全国・東北大会出場に伴う経費の一部補助及び選手強化のため施設使用料の一部を補助する。

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	上北郡総合体育大会参加者数	15競技181名出場(2競技優勝/総合第4位)	14競技157名出場(3競技優勝/総合第3位)	12競技160名出場(3競技優勝/総合第4位)
	北奥羽総合体育大会参加者数	4競技37名出場	5競技52名出場	3競技29名出場/総合第4位
	青森県民体育大会参加者数	10競技100名出場/町の部9位	9競技118名出場/町の部8位	12種目141名出場/町の部第17位
全国東北大会出場数	4団体(ゲートボール・ハンドボール・ボウリング・グランドゴルフ)	3団体(野球、サッカー、ゲートボール)	3団体(野球、サッカー、ゲートボール)	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	町代表として出場する大会への派遣費であり、選手強化に伴う成果及び競技人口の維持増加や生涯スポーツ活動の推進につながっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	町代表として出場する大会への派遣費であり、今後も予算確保に努める。
----------	--	-----------------------------------

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)⑥	担当課	生涯学習課	担当者	田栗 昌弘
事業名	七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(東北大会・全国大会)				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	1,342	2,197	1,002	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	1,342	2,197	1,002		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	上位大会出場機会を支援することで、競技力の向上・競技スポーツの振興、生涯スポーツ振興を目的とする。	町内スポーツ少年団及び体育協会加盟団体等が、予選を経て東北・全国大会に出場する場合の対象経費(交通費宿泊費等)を補助する。 (スポーツ少年団:対象経費1/1、体育協会加盟団体及び一般関係:対象経費1/2)

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	スポーツ少年団	26件 (127名)	30件 9団体 (142名)	8件 4団体 (32名)
	一般	4件 (20名)	7件 6団体 (44名)	3件 3団体 (24名)
		1,110,000円	1,839,000円	853,000円
		232,000円	358,000円	149,000円

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	東北大会以上の大会参加を支援することにより、競技団体及び競技者の高いレベルでの競技力強化や生涯スポーツ活動の推進につながっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	スポーツ少年団の補助対象となる大会の見直しが必要である。県大会については、補助金の見直しを図り平成28年度から補助金を廃止した。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)⑦	担当課	生涯学習課	担当者	天間 正子
事業名	健康増進生涯スポーツ普及事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)			1,650	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
	一般財源			1,650	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	①町民の健康の維持増進・体力向上を目的に、子どもから高齢者まで参加しやすい軽スポーツの集いを実施し、地域スポーツ活動の普及・奨励を図る。 ②トップレベルの競技者の育成と指導者の確保を目的に、スポーツ指導者等講習会を実施し、競技者の競技力向上を図る。 ③総合型地域スポーツクラブ等の設立を目指し、スポーツ活動ができる環境づくりを支援し事業の充実を図る。	七戸町の生涯スポーツの普及を図るため、下記の事業を実施する。 ①軽スポーツの集い ②スポーツ指導者等講習会 ③スポーツクラブ育成支援

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	軽スポーツ教室			延101名参加
	スポーツ指導者等講習会			45名参加
	スポーツクラブ育成支援			4競技種目:95名参加

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	①軽スポーツの集い:参加しやすい軽スポーツを選択したことで、子どもから高齢者まで幅広い参加があり、短時間での実施ではあったが楽しさ等を体感することで、健康増進や体力向上に効果があった。 ②スポーツ指導者等講習会:元埼玉西武ライオンズ投手コーチの橋本武広氏の経験をもとに技術指導等の専門的な講習であったため、講習後のアンケートでは指導方法などについて実践的な感想が寄せられ、技術向上を図ることができた。 ③スポーツクラブ育成支援:子どもたちのスポーツを行う場所を提供でき好評であった。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	定期的・継続的に行うスポーツ環境の整備における問題点など、今後の方向性や事業展開に向けた整理が必要と考える。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(3)②	担当課	生涯学習課	担当者	天間 正子
事業名	スポーツ顕賞表彰				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	455	692	501	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	455	692	501	

事業概要	□ 目的	スポーツ活動において、顕著な成績を残した者、町民の健康福祉の増進に功労があったもの又は広く町民の模範となるべきものを顕賞する。	□ 内容	スポーツ顕賞(①スポーツ功労賞 ②スポーツ賞 ③スポーツ優秀賞 ④生涯スポーツ奨励賞)の顕賞を行う。各種団体、県内外の高校から推薦基準に基づき推薦を受け、七戸町スポーツ顕賞審議会で審議し、顕彰者を決定する。
------	------	---	------	---

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	スポーツ功労賞受賞者数	個人2名	該当者なし	個人3名
	スポーツ賞受賞者数	個人5名	個人3名	個人2名
	スポーツ優秀賞受賞者数	個人10名・団体3(19名)	個人15名・団体3(44名)	個人13名・団体2(33名)
	生涯スポーツ奨励賞受賞者数	個人1名・団体1(4名)	個人7名・団体1(17名)	個人5名・団体2(17名)

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	スポーツ活動で顕著な功績・成績のあった個人・団体を顕賞し、受賞者の功績を広く町民に周知することで、スポーツ活動への意欲・関心を高めるものであり、町のスポーツ振興へもつながっているため継続実施する。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各賞について種目及び大会種類によって推薦基準、審査判定に偏りが生じている為、推薦・審査基準について見直しを図る。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(3)③	担当課	生涯学習課	担当(記入)者	大池 謙嗣
事業名	各種大会開催や合宿等の誘致				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源				

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町内にある、スポーツ施設の利用促進を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	各種大会及びイベント事業等の開催誘致。

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	大規模な大会・イベント集客数	七体/6月:商業祭 1,000人	七体/6月:商業祭 1,000人	七体/6月:商業祭 1,000人
	"	七体/10月そば博 6,000人	七体/10月そば博 6,000人	七体/4月:桜花柔道大会 1,000人
	"	七体/4月:桜花柔道大会 1,000人	七体/4月:桜花柔道大会 1,000人	七体/7月:防犯剣道大会 1,000人
"	七体/8月:防犯剣道大会 1,000人	七体/7月:防犯剣道大会 1,000人	七運/9月:朝野球県大会 800人	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
	評価の説明	大きな大会・イベントを誘致することで、施設の利用促進に繋がり町の大きなPRにもなる。また、県・東北大会など、レベルの高い試合に接する機会を提供できる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	七戸体育館は耐震判定指標を満足していないため、県大会など規模の大きな大会の開催について、利用を制限している。 各施設の整備を計画的に行い、大会や合宿の誘致に努めると共に、町民の利用促進を図る。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	公民館運営審議員設置事業				

事業費	年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
	決算額(千円)		152	174	159
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		152	174	159

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	公民館が町民の意見を適切に反映し、民主的・効果的に運営されるために、運営審議員の協力を得て公民館運営を行う。	公民館事業に関することや公民館の運営について、説明や意見の聴取等を行う会議を年2回開催するほか、年1回研修会に参加し、公民館運営の改善と地域に開かれた公民館づくりを推進した。

事業効果	年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)				
運営審議員数		9人	10人	10人	
会議		2回	2回	2回	
研修会		1回	1回	1回	

事業評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	公民館運営審議会委員から意見や評価を得ることにより、地域に開かれた信頼される公民館づくりに貢献している。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	地域や公民館との関わりのある関係者の意見を広く求め、地域に開かれた公民館づくりを推進するために、継続が必要である。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)③	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	中央公民館分館事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	2,200	2,200	2,200	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源		2,200	2,200	2,200	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	地域コミュニティの形成・充実及びまちづくりの活性化を図ることを目的とする。	分館が地域特性を活かし、町民に学習機会、健康増進業務、奉仕活動、伝統文化の継承、世代間交流等を実践する。

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	分館数(分館)	11	11	11

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			B(イ)(エ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	分館の地域性、独自性を持って、地域住民のニーズに沿った事業を実践することにより、地域コミュニティをより充実させている。 また、分館長会議を開催し、分館における問題を出し合い、連携を図ることができた。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	分館は、地域性を活かした事業を実行するように努めるとともに、分館間での情報共有の機会を設け、意見を交換している。 今後は、情報共有に基づき、地域課題を見つけ、それに重点を置いた事業を展開することが望まれる。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	5(1)④	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	中央公民館講座開設事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	288	195	161	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	288	195	161		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	町民の生涯学習として、知識の向上と教養を高めることにより、心豊かな生活を送るための一助となることを目的とする。	平成28年度の講座内容一覧 ①筋膜リリース教室②心と身体が喜ぶ整体教室③着付け教室 ④ベーパークイリング教室⑤筋膜リリース教室⑥そば打ち体験教室 ⑦酒粕料理教室

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	講座数(講座)	7講座	7講座	7講座
	講座申込者数(人)	184人	203人	141人
	講座延べ実施数(人)	477人	570人	295人

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B(ア)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	昨年同様、7つの講座を実施し、中でも硬くなった筋膜をほぐす方法の講座が昨年に引き続き人気があった。参加者も20代から70代と幅広く、講座参加者の中からはサークルを作り継続したいという声もあった。今後は、サークルの立ち上げの支援をしたいと思っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	対象者、有効性、公平性等をより一層見極め、町民のニーズを考慮した講座を継続しなければならない。 また、講座をきっかけとした自主運営団体を奨励し、助言・支援に努めていく。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑤	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	寿大学開設事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	96	100	99	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	96	100	99		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	高齢者が「技術・技芸」「スポーツ」「健康」「一般教養」の学習を図り、長年にわたって培った豊富な経験、知識、技術をさらに高め、健やかで生きがいのある人生を送り、社会活動に参加する学習機会を提供することを目的とする。	5月：合同開講式(認知症の理解と対応について) 6月：苔玉づくり・吹き矢体験 7月：パークゴルフ 8月：プリザーブド教室 9月：町外研修(五所川原市) 10月：「長生きするための知識を養う」・「天間館の歴史」 11月：七宝焼き教室 12月：みよこ太鼓教室 1月：グラウンドゴルフ 2月：合同閉講式(食材の栄養素を引き出すお話)

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	開催数	9回	9回	9回
参加者数(人)	261人	271人	277人	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	講師を招いての「七宝焼き」が大変好評だった。初めての体験となった「和太鼓」では、太鼓用の楽譜に集中し、意欲的に取り組んでいた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	関係機関や関係課との連携を図り、学習内容をさらに充実させ、コスト削減に努める。 また、幅広い年代(60代～80代)の方が入学するので、アンケート調査を実施したり、町民の意見や要望を取り入れ、施設、設備環境に配慮し、学習機会を提供する必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑥	担当課	南公民館	担当者	岡田 晋
事業名	柏葉大学開設事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	102	102	90	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	102	102	90		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	高齢者の生き甲斐づくりの為、健康・教養・趣味を軸とした各講座を開催し、社会教育活動に参加する機会を作る。	<input type="checkbox"/> 内容	生涯学習のさらなる向上、充実を図る為、次のような講座を実施した。 講座 ①開講式・講演会②清掃奉仕活動③パークゴルフ教室④健康体操教室⑤町外施設見学⑥七宝焼き教室⑦ヨガ体操教室⑧思い出の歌教室⑨ブリザードフラワー教室⑩グランドゴルフ教室⑪開講式・講演会 全11講座
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	講座実施数	14回	11回	11回
	参加者人数	延人数329人	延人数281人	延人数264人

事業評価	評 価 項 目			評 価	
	事	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	業	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	評	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A		
価	評価の説明	この事業は、60歳以上が対象の事業であることから、実施内容や実施方法を、今後、住民のニーズに応えられるよう更なる創意工夫し、継続して、高齢化社会の中、ますます内容の充実を図らなければならない必要がある。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(募集方法の見直しが必要)	地域のニーズに合った講座を企画立案し、より一層高齢者の生き甲斐・社会教育活動に参加する場の提供に役立つよう努力していく。また、男性の参加者が少ないので、実施内容など、適切かつ魅力ある設定が必要である。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑧	担当課	七戸南公民館	担当者	岡田 晋
事業名	七戸南公民館分館事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	800	800	800	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	地域住民の知識・教養を高め、健康の増進を図り、心豊かで潤いのある生活の増進に努める。	<input type="checkbox"/> 内容	旧七戸中央区以外の4地区(野々上、西野、倉岡、鶴児平)に分館を設置し、各地区において特色のある事業を展開し、地域の生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。1分館あたり20万円の委託金交付。事業内容としては、運動会・盆踊り・敬老会・廃品回収やクリーン作戦等の分館業務を委託する。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	分館数	4	4	4

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	いずれの分館も分館長や分館主事を中心として特色のある事業を展開している。南公民館としては、各分館の事業の周知の協力や、事業計画の助言に加え、適切な会計処理の指導を行っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各分館とも安定した運営を行っている。今後他の地区との情報交換により、さらに充実した分館事業を行いたい。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(2)②	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	七戸町連合婦人会育成事業				

事業費	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	500	400	400	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	500	400	400		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	婦人の社会的地位の向上と婦人活動の育成を目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	婦人会活動に対する助言・指導等を行い、研修会、芸能発表会、ボランティア活動を自主的に計画実施、さらに各種研修会、七戸秋まつり流し踊り等の町内イベントへの参加を支援をする。

事業効果	年 度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	加入単位数	9単位	8単位	8単位
会員数	174人	166人	160人	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		B(イ)
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B(イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	婦人会の現行組織は、概ね自立運営されている。各種研修会やボランティア活動を自主的に計画実施したり、町の行事に参積極的に参加し、貢献している。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	新規加入者が少なく、組織の後継者の確保が難しい現状である。地域に根ざした活動を積極的に行い、新規会員の加入促進を図る必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	5(2)③	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	中央公民館だより発行事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	0	0	0	

事業概要	□ 目的	中央公民館の活動に関する多種多様な情報を提供し、意識高揚と啓蒙を図る。	□ 内容	中央公民館事業に関わる情報紙「中央公民館だより」を全世帯に配布する。 主に中央公民館講座のお知らせ並びに参加申し込みが内容となっている。
------	------	-------------------------------------	------	---

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)	延べ毎戸配布数(世帯)	27,370 世帯	32,736 世帯

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A	
	評価の説明	「中央公民館だより」は、啓発記事を掲載するとともに、中央公民館講座等のお知らせ並びに参加申込みのための機関紙となっており、町と町民のコミュニケーションにおいて有効な媒体であると評価できる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も継続するとともに、町広報、町ホームページなど、新たな媒体の活用を検討する。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	6(1)③	担当課	中央図書館	担当者	十枝内 知子
事業名	図書館協議会の運営				

事業費	年度	平成26年度		平成27年度		平成28年度	
		決算額(千円)	99	99	152		
財源内訳	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源	99	99	152			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	図書館法に基づく図書館協議会の招集・運営。	<input type="checkbox"/> 内容	委員は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館サービスについて館長に対し意見を述べる。図書館は、委員の意見をもとに業務の改善に取り組む。
------	-----------------------------	-----------------------	-----------------------------	---

事業効果	項目(単位)	平成26年度		平成27年度		平成28年度	
		委員定数(人)	10	10	10		
開催回数(回)	2	2	3				

評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	B
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	委員から出された意見は可能な限りその都度図書館運営に反映させ、事業の改善を行っている。平成28年度も、一部事業の運営にも参加してもらい、事業充実への協力もあった。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も継続して取り組んでいく。
----------	---	-----------------

事業評価シート

事業細目番号	6(2)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	決算額(千円)		24	24
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	24	24	24

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	すべての子どもがあらゆる機会、場所において自由で公平に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> 内容	①おはなし会(春・夏・クリスマス・冬)開催と絵本の展示による啓発 ②朝の読み聞かせ(小学校・こども園) ③学校巡回配本(小学校・こども園) ④読み聞かせボランティアの育成
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
児童図書貸出冊数		1,732 冊	4,505 冊	4,887 冊
おはなし会参加人数		185人	339人	345人
学校配本冊数		960 冊	1,040 冊	1,040 冊

事業評価	評価項目			評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A	
評価の説明	子どもが読書への関心を高めるよう、小学校の朝の読み聞かせ、こども園での絵本の読み聞かせ、おはなし会等を開催し効果を上げている。 子ども読書活動推進のために、読み聞かせボランティアの連携と支援を行っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	子ども読書活動推進のため、本に親しめる環境整備と、読み聞かせボランティアの育成は、今後も継続して支援を行っていく必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	6 (2) ③	担当課	中央図書館	担当者	十枝内 知子
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	決算額(千円)		113	103
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	113	103	89

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	「七戸町子ども読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもがあらゆる機会、場所において、自主的に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> 内容	①おはなし会の開催や絵本の展示による啓発活動 ②6ヶ月児健診を利用したブックスタート事業 ③学校巡回配本(月1回/低・高学年別) ④県立図書館事業「子どもの読書活動推進のための図書セット貸出」事業を利用した巡回配本。(保育園・幼稚園対象:家庭での読み聞かせ用絵本) ⑤読み聞かせボランティアの育成
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	項目(単位)			
	おはなし会実績(回/人)	3回/100人	3回/100人	2回/85人
	ブックスタート実績(人)	85人	72人	80人
	学校配本実績(人/冊)	2,910人/6,426冊	2,786人/5,878冊	2,559人/5,702冊
	図書セット巡回配本(ヶ所)	幼稚園・こども園・保育園 4ヶ所	幼稚園・こども園・保育園 4ヶ所	幼稚園・こども園・保育園 4ヶ所

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会をはじめとした各種事業を実施し、子どもの読書への関心を高める活動を行っている。また、図書ボランティアの育成に関する支援も行っている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	「七戸町子ども読書活動推進計画」をもとに、今後も継続して取り組んでいく。また、ボランティアの育成については、新規会員の確保も含め、支援を行っていく必要がある。
----------	--	---

